

# 卯月

〔うづき〕令和4年4月

卯の花が随所で咲き乱れる  
ので、卯月または卯の花月と  
言いました。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

神は清淨を欲す、正に従ふを以て  
清淨となす、惡に隨<sup>したが</sup>ふを以て不淨となす

## 今月のことば

～神道明辨～

神は清淨を欲す

正に従ふを以て清淨となす

悪に隨ふを以て不淨となす

～神道明辨～

これも伊勢神宮の教學が清淨・正直の二つにあるこ  
とを明示したものである。

清淨・正直が伊勢の天照大御神の御心に外ならない  
としたのは、伊勢神宮の祭りが、この二つを理想とし  
て実行されて来ていることを物語つたものに外ならな  
い。

さらに清淨・正直といつても別々のものではない。  
正直の言行が、そのまま直ちに清淨となるのだとする。  
これに反し、正直でないことは、それがすべて惡だと  
される。人間道徳でいう正直も、その根本は信仰的な  
深い清淨心に根源があり、そこから發する。  
眼に見えない世界の存在に敬虔な眼を向けるのが、  
信仰としては肝要である。

(続神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

## 季節のまつり

入学

決意も新たに  
「氏神さま参り」

入学や就職、新学年、会社の年度始めなど生活環境が変わる時も、人生の大大きな節目といえます。新しい何かが動き始める躍動の月の始めに、氏神さまにお参りをし、今後のことさらなる御加護をいただき、無事に過ごせるようお願いしましょう。



十三

四月十三日

大人への入り口に知恵や福を

数え年で十三歳になつた男女が、福徳と知恵が授かるようにお参りするならわいで、「知恵もうで」とか「知恵もらい」とも言われています。参拝の帰り道に後ろをふり向くと、授かった知恵を落とすという言い伝えもあります。十三参りは、もともと女の子のお祝いとして二百年前に始まりましたが、十三歳という年齢は、男女共に肉体的にも精神的にも大人への変換期にあたり、少し不安定な時期でもあります。親子ともども心身の健康をお願いしましょう。

関西地方ではさかんに行なわれています。関東の靈峰といわれる筑波山、赤城山、三峯山などの神社では、この日に例大祭が執り行われる。この日の筑波山神社の「御座替祭（おざかわりさい）」や、静岡浅間神社の四月三日の「昇り祭降り祭」のように、山の神が里に下られて田の神になるという信仰が全国的にあります。また全国の神社の春祭りも、これとおおよそ同じくするものといつてよいと考えられます。四月八日には福島県の東南部では、この日を神の日だといって田に入らない。また静岡県庵原郡には、この日に山の神を祭るところがある。また「千早振る卯月八日は吉日よ神さげ虫の成敗ぞする」と紙に書いて虫よけのまじないにすらあるところがある。鹿児島県、徳島県の一部では、この日に山に登って遊楽する風習がある。こののはほか、この日にウツギ・ツツジ・シャクナゲなどの花束を竹竿につけて庭先に立てる風習が全国的にある。これをタカハナ・テントウバナと呼ぶところから見ると、やはり春の農耕期に先立つての「日の神迎え」の信仰が表されているものと考えられる。さらにこの日をソーリーといっている地方（鹿児島県の一部）のあるのは、これまでの神迎えに日であることを示している。

ソーリーはサオリで、サオリのサは神のことを指す。このように本格的な春の農耕作業を開始するにあたつての神祭りの風習がこれほどはつきりしていることは、卯月八日が、実は日本列島全体の春祭りの時期であることを物語るものといつてよい。

四月八日は花祭りで、お仏迦さまの誕生日だといつて甘茶をかける風習は広く行きわたつてゐる。しかし全国のこの日の習俗を見てみると、神祭りの日もあることに気がつく。

## 歳月不待

今の時を大切にし  
日々怠けることなく  
努力せよという戒め。



参考文献

『くらしと祭り百話』小野迪夫（神社新報社）

令和4年  
2022年

# 4月

日

月

火

水

木

金

土

1 先負

さる

2 仏滅

とり

3 大安

神武天皇祭

いぬ

4 赤口

る

5 先勝

清明

ね

6 友引

うし

7 先負

とら

8 仏滅

う

9 大安

たつ

10 赤口

11 先勝

三りんぼう

うま

12 友引

ひつじ

13 先負

さる

14 仏滅

とり

15 大安

いぬ

16 赤口

る

17 先勝

土用

ね

18 友引

うし

19 先負

とら

20 仏滅

穀雨

う

21 大安

たつ

22 赤口

み

23 先勝

三りんぼう

うま

24 友引

25 先負

さる

26 仏滅

とり

27 大安

いぬ

28 赤口

る

29 先勝

昭和の日

昭和祭

30 友引

うし

## 七十二候《4月》

穀雨

清明

【選日の吉凶】  
〔三りんぼう〕…二隣亡日、普請始め、棟上大凶日

〔先勝〕…諸事急ごことによし、午後よりわるし  
〔友引〕…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む  
〔先負〕…諸事静かなることによし、午後大吉  
〔仏滅〕…万事凶、患えば長びくあそれあり  
〔大安〕…何事をするのにも吉の日、大吉日  
〔赤口〕…諸事油断すべからず、正午のみ吉

## 六曜・選日

【穀雨 こくう】…二十日

旧暦三月辰の月の中氣で、このころになると、春玲瓏として草木の花が咲き初め、万物に晴朗の氣があふれてくるという意味です。春の季節の最後の節氣です。

## 二十四節氣

【清明 せいめい】…五日

旧暦三月辰の月の正節で、このころになると、春玲瓏として草木の花が咲き初め、万物に晴朗の氣があふれてくるという意味です。

※七十二候とは二十四節氣の各節氣をさらに3つの候に細分して、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

安産祈願 4月の戌の日

3日(日) / 15日(金)  
27日(水)

\*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしています。神社にお問い合わせください。

## 『29日 昭和の日』

激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いを致す日です。



祝祭日には国旗を掲げましょう

地上の生物はこの恩恵なしでは生きていけません。そしてたくさんの植物が育っている森は、雨水を蓄え、蓄えられた水は森の養分を十分に吸収し川から海へと流れ込み、海藻が茂り魚たちの生きる場が創られています。まさに森は、天と地を結び太陽と水によって命を育む源です。私たちの祖先は、そのことを体験の中から学び、自然を作り出します。

植物は、水と太陽のエネルギーを利用して光合成によつて酸素と炭水化物を作ります。

昔から神社の杜は「鎮守の杜」といわれ、神聖なものとして大切に保護してきました。境内は神々が宿り鎮まる杜であり、いろいろな意味で私たちに恵みを与えてくれる森なのです。自然の中に神々を感じる心を絶やすことなく「森」を守り、家族そろって「杜」へ参拝してみましょ。

## 「鎮守の杜」

「日の大神の恵みを得て、